

第12回インフラツーリズム有識者懇談会 資料

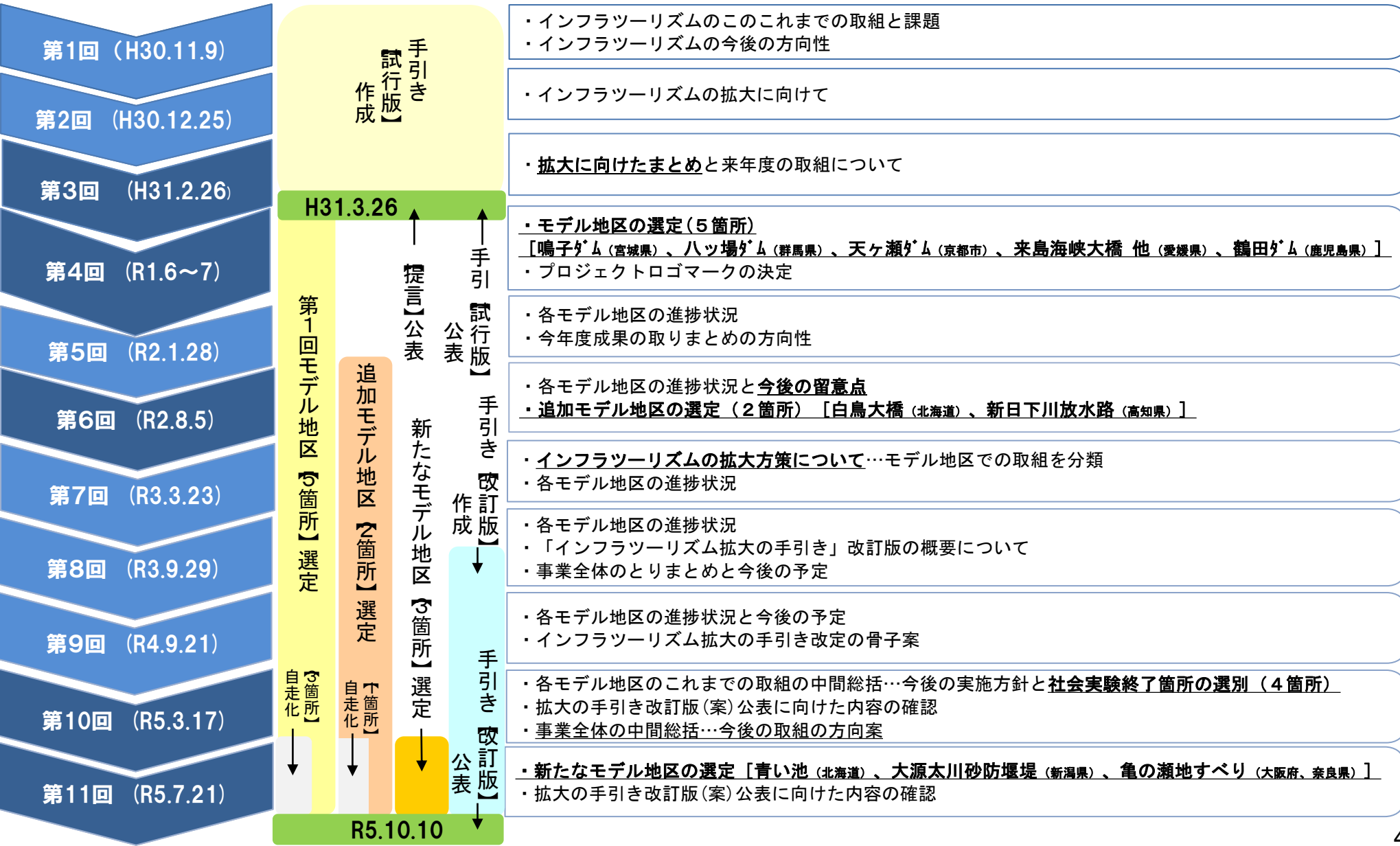


- 1. 前回までの議論の概要**
- 2. 各モデル地区の進捗状況**
- 3. これまでの課題と対応方針(案)**
- 4. 今後のスケジュール(案)**

1. 前回までの議論の概要

1. 前回までの議論の概要 —懇談会の開催経緯—

◆ インフラツーリズム有識者懇談会



1. 前回までの議論の概要

■ 前回までの懇談会でいただいた主なご意見

手引きの使い方・周知について

- 手引きの周知方法も含め、有効に活用して頂き、全国のインフラ施設で新たなインフラツーリズムの推進に取り組んでいただきたい。
- ただし、手引きを読めば、何かできてしまうものではなく、有識者の意見も必要。

取組みの横展開について

- （モデル地区以外のインフラ施設のインフラツーリズムの取組みがあり、）色々なところで起こる新しい動きに関する情報を、各地の担当者の方々が簡単に取れる環境があるとよい。
- （他のインフラ施設の）情報を担当者が見ることで、近隣の地整関係者同士が連携し、相互に視察に行ったりできる可能性も高くなり、そのようなところから機運ができて、取組みのスピードが上がっていくはず。

モデル地区における検証ポイントが不明瞭

- 新規の3モデル地区で、何を検証するか検討する必要がある。
- 検証ポイントが多いと見切れなくなるので、どれか1個に絞ってその差を見る必要がある。

2. 前回までの議論の概要 ー 一手引きの改訂 ー

- 第11回インフラツーリズム有識者懇談会において、インフラツーリズム拡大の一手引きー改訂版ー(案)へのご意見をいただきました。
- いただいたご意見を反映させ、令和5年10月10日インフラツーリズム拡大の一手引きー改訂版ーを公表しました。

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和5年10月10日
総合政策局公共事業企画調整課

地域と連携したインフラアープクリの参考に！
～「インフラツーリズム拡大の一手引き」を改訂～

国土交通省では、平成31年3月に「インフラツーリズム拡大の一手引きー試行版ー」を作成し、インフラツーリズムの推進を図ってまいりましたが、この度改訂を行いましたのでお知らせいたします。

これまでの有識者懇談会での議論や「魅力増進プロジェクト」によるモデル地区の実践を通して得た知見等を踏まえ、インフラツーリズムの拡大に向けて必要な取組項目やその工夫点等を取りまとめたものです。

インフラツーリズム拡大の一手引きー改訂版ーは、より実践的かつ多様な取組進度に対応できるよう、内容の改訂を行いました。

この改訂版が、インフラの施設管理者と地域の方が連携し、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与するインフラツーリズムの推進につながることを目標としています。

- 【手引書の構成】**
- 第1章 インフラツーリズムに取り組みにあたって
 - 第2章 インフラツーリズム拡大の考え方
 - 第3章 インフラツーリズム拡大に向けて取組むべき事項
 - 第4章 インフラツーリズム拡大に向けたナレッジ



※ インフラツーリズム拡大の一手引きー改訂版ー 及び 有識者懇談会
https://www.mlit.go.jp/soeoseisaku/region/soeoseisaku_region_tk_000068.html

<問い合わせ先>
 国土交通省 総合政策局公共事業企画調整課 佐々木、矢部
 代表：03-5253-8111 (24563, 24524) 直通：03-5253-8912

インフラツーリズム

拡大の一手引き

- 改訂版 -

国土交通省 総合政策局

2. 各モデル地区の進捗状況

2. 各モデル地区の進捗状況ーこれまでのモデル地区と概要ー

つるだ 鶴田ダム

【鹿児島県薩摩郡さつま町】

- ・九州最大の重力式コンクリートダムで水位低下時には明治期の発電所遺構が出現
- ・霧島連山や桜島等の広域周遊モデル



あまがせ

天ヶ瀬ダム 【京都府宇治市】

- ・宇治市街地に近接
 - ・立地を活かし、DMOと連携したツアー造成、淀川水系支流の高山ダムとの組み合わせなど
- 広域連携モデル ※モデル地区選定時

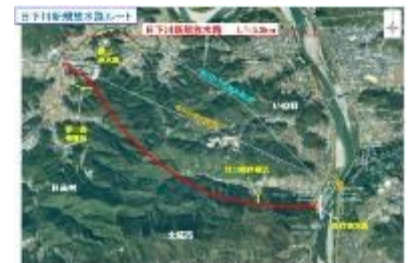


くさかがわ

新日下川放水路

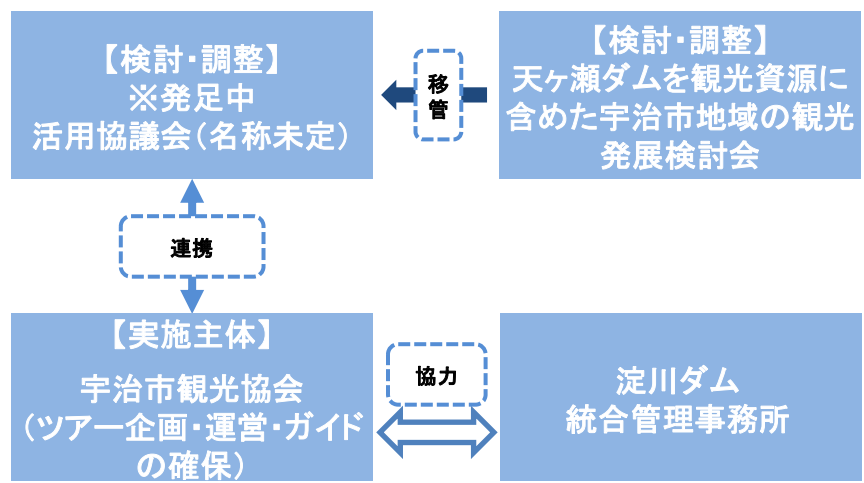
【高知県高岡郡日高村】

- ・日本最長級(5.3km)かつ高度な技術を必要とする水路トンネルを現在工事中
- ・仁淀ブルー等の観光資源との連携を進めるとともに、工事現場の見学を通して、放水路、調整池等のインフラ施設と水害の関わり、歴史を紹介・学習する工事段階から管理段階への移行モデル。



2. 各モデル地区の進捗状況－天ヶ瀬ダム－

体制・運営スキーム



これまでの実施スケジュール (抜粋)

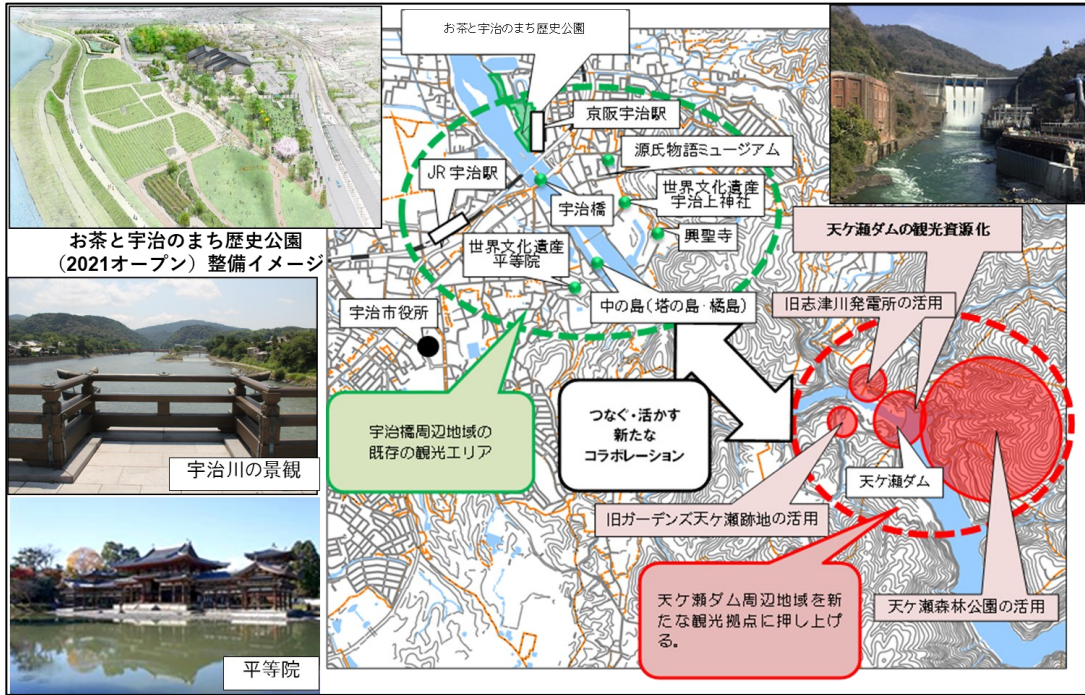
- モデル地区採択 (令和元年7月)
- 協議会の立ち上げ: R1.7~R2.3
 - 戦略の策定: R2.4~
 - 運営体制の検討及び構築: R2.4~
 - コンテンツの検討及び地域観光資源の活用: R2.4~
 - モニターツアー等の実施: R3.3及びR4.2
 - 旅行商品の造成: R3.4~
 - 販売戦略の構築: R3.4~
- 河川空間のオープン化の準備・手続き: R5.4~
- 令和元年度
 - ・(11月・3月) 現地協議会の実施
 - ・(11月) モニターツアーの実施
 - 令和2年度
 - ・(12月・3月) 現地協議会の実施
 - 令和3年度
 - ・(11月・3月) モニターツアーの実施
 - 令和4年度
 - ・(11月) 有識者委員意見交換会
 - ・(2月) 教員向けモニターツアーの実施
 - ・(3月) 新規ガイドマニュアルの制作
 - 令和5年度※予定を含む
 - ・(11月) 新協議会の発足
 - ・(3月) 河川空間のオープン化申請完了

これまでの取組

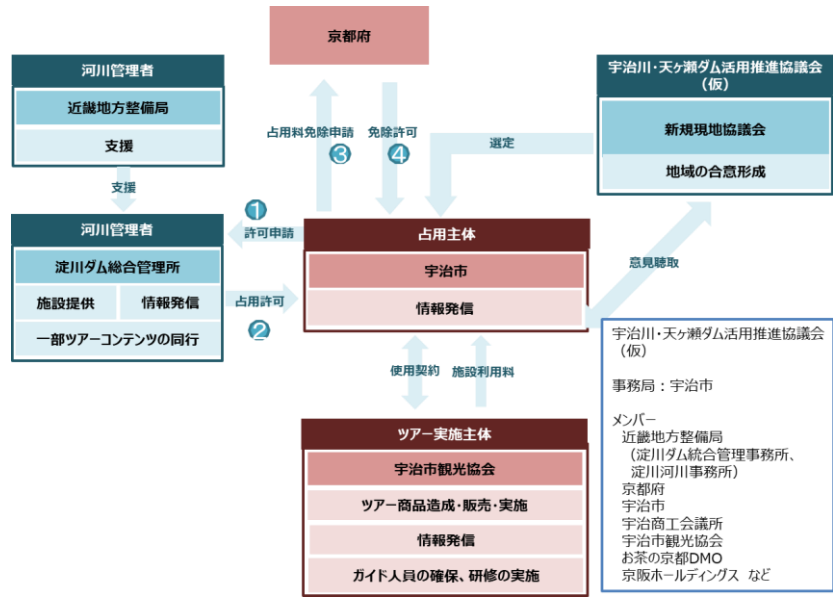
①戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> ・観光発展検討会等で近隣 (宇治市内) の教育機関の誘致に向けた取組を行うことで合意形成ができ、実施すべき取組事項 (既存コンテンツを教育旅行に特化した内容へ変化等) が明確化されている ・これまで別で実施してきたかわまちづくり計画 (宇治川の舟運) と合わせた誘客計画を検討中
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・宇治市観光協会が中心となった、対外的な予約受付体制は構築されている ・収益事業を宇治市観光協会が行うための河川空間のオープン化を今年度申請予定 ・河川空間のオープン化に伴い、発展検討会を解消、正式な協議会を発足を11月に発足予定
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで提供していた一般団体向けの見学商品 (タリフあり) を教育旅行向けに磨き上げしている途上 ・R5.3月に実施した宇治市内向け教育旅行商品の造成を目下優先的に進めていく予定 ・宇治市観光協会を中心としたガイドの運営体制の構築、ガイドマニュアルは整備済み
④対外的な発信 情報発信/販路構築	<ul style="list-style-type: none"> ・施設管理者ウェブサイト及び宇治市観光協会のウェブサイトにて天ヶ瀬ダム見学の情報を掲出 ・販路については宇治市観光協会が中心となり、旅行会社向けの販売等を行う予定

2. 各モデル地区の進捗状況—天ヶ瀬ダム—

- 令和5年度の近況
 - ① 河川空間のオープン化手続き
 - ② 河川空間のオープン化に伴う新体制の検討



①河川空間のオープン化を検討する宇治川周辺活用計画案



②河川空間のオープン化に伴う新体制案

2. 各モデル地区の進捗状況－天ヶ瀬ダム－

R5.5月24日
※実施済み

発展検討会の実施

<実施事項>

- **事業基盤の構築に向けた検討**
 - ・河川空間のオープン化手続きの確認
 - ・河川空間のオープン化に伴う新体制案の検討
 - ・新協議会の立ち上げに向けた検討

R5.11月ごろ
※調整中

宇治川・天ヶ瀬ダム活用推進協議会（仮）設立総会/第一回協議会の開催

<実施事項>

- **事業基盤の構築に向けた検討**
 - ・河川空間のオープン化手続きの進捗確認
 - ・新協議会の立ち上げ（設立総会）

R6.2月～3月

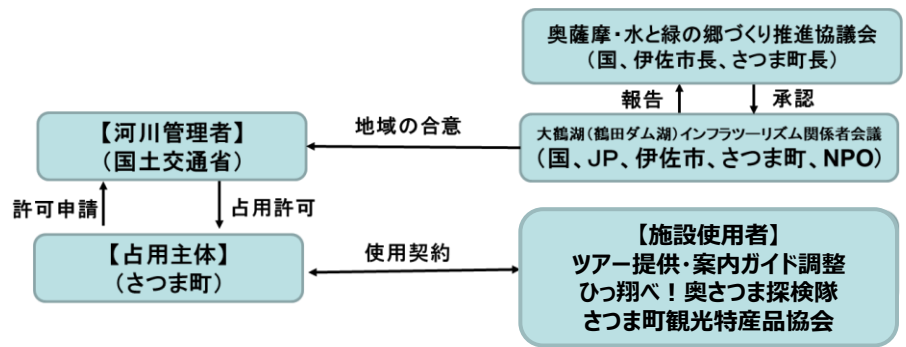
第二回協議会の開催

<実施事項>

- **地域が主体となったツアーの実施に向けた検討**
 - ・次年度以降の実施事項の確認
 - ・継続的な事業実施に向けた検討

2. 各モデル地区の進捗状況－鶴田ダム－

体制・運営スキーム



これまでの実施スケジュール（抜粋）

- | | |
|--|--|
| <p>モデル地区採択（令和元年7月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■協議会の立ち上げ：R1.7～R2.3 ■戦略の策定：R1.7～ ■運営体制の検討及び構築：R1.7～ ■コンテンツの検討及び地域観光資源の活用：R1.7～ ■モニターツアー等の実施：R2.11 ■旅行商品の造成：R1.7～ ■販売戦略の構築：R4.10～ <p>■河川空間のオープン化準備・手続き：R4.12～R5.10</p> | <p>令和元年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区採択（令和元年7月） ・（11月）ファミツアーの実施 <p>■令和2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（11月）モニターツアーの実施 <p>■令和3年度 ※コロナ禍及び水害対応により取組休止</p> <p>■令和4年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（12月・2月）関係者会議の立ち上げ・実施、※体制の再構築・方針の設定 <p>■令和5年度※予定を含む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（4月）ダム見学有料化の試行開始 ・（8月・11月）関係者会議の実施 ・（10月）河川空間のオープン化指定（占有主体：さつま町） ・（11月）オープン化記念イベント予定 ・（2月ごろ）ファミツアーの実施予定 |
|--|--|

これまでの取組

①戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人客のツアーを有料化へ移行させ、持続可能な体制構築を図る ・ 商品をダムの各観光素材ごとに個別に設定し、個人客が多いという観光ニーズに対応 ・ 将来的にはダム周辺の観光地とゆるやかな連携によるツアーの実施や事業収益向上の検討
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ さつま町を占有主体とした、新たな体制へ移行（当面はダム見学有料化とダム焼酎貯蔵の販売・管理での利用） ・ 上記に付随し鶴田ダム及びダム周辺の一部を都市地域再生区域（河川空間のオープン化）に指定完了 ・ 土日の受入が可能な体制構築済み
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダム見学有料化とダム焼酎貯蔵販売を造成 ・ オープン化に併せてダム見学案内ガイドを募集し、案内ガイドによる運用を開始 ・ 大鶴湖の遊覧船（曾木の滝・曾木発電所遺構）等を組み入れた見学プランを検討中 ・ 近隣NPOがガイドなど主体的に遊覧船を運用する予定（イベントとして単発的には実施中）
④対外的な発信 情報発信/販路構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン上で受付可能な予約フォームを整備済み ・ 教育旅行やバス旅等での販路構築に向けて旅行会社向けファミツアーの実施を検討

2. 各モデル地区の進捗状況ー鶴田ダムー

■ 令和5年度の近況

- ① 令和5年10月11日に鶴田ダムの河川空間のオープン化指定
- ② 11月26日オープン化記念イベント（地域イベントと連携）の予定

国土交通省 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

令和5年10月11日
国土交通省九州地方整備局
鶴田ダム管理所

鶴田ダムが「都市・地域再生等利用区域（河川空間のオープン化）」に指定！
～インフラツーリズムなど地域振興策の持続的な推進体制構築に向けて～

【鹿児島県で初めての指定】

鶴田ダムは、昭和41年の完成以来、土木広報の一環として、これまで鶴田ダム管理所職員による社会科見学等の平日のダム見学を行ってまいりました。

また、近年では地域資源を有効に活用した地域の活性化を推進することを目的として、鶴田ダム管理所、さつま町、さつま町観光特産品協会と連携協定書を締結し、地域の特産品である焼酎を鶴田ダム監査廊内へ長期貯蔵・販売する「鶴田ダムエイジング焼酎プロジェクト」を試行的に行っていました。

これらのダム見学、焼酎貯蔵ともに、多数の参加・申込があり、好評を得ていることから、この度、地域の自立的・持続的な活性化、産業振興を図るため、さつま町から「都市・地域再生等利用区域」の指定（河川空間のオープン化と称する）に関する要望が九州地方整備局へなされ、今般、河川敷地占用許可準則に基づく「都市・地域再生等利用区域」の指定を行いました。

今回の区域指定により、占用主体であるさつま町が民間事業者等と使用契約を結ぶことで、ダム堤体内の放流ゲート室等を活用した有料ダムツアーの開催、ダム監査廊を活用した焼酎貯蔵販売、及び有料を含めた各種イベントの開催などが可能となります。

記者発表に関する問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 鶴田ダム管理所 専門官 有嶋哲朗
TEL 0996-59-2030（代表）

鶴田ダム
秋の大鶴湖まつり
in 2023

2023.11.26(日) 9:30 ~ 17:00

イベント特設HP: <https://www.csr.mlit.go.jp/turuta/go/matsuri2023.html>

ダム放流見学

ダム放流見学の詳細

◎放流を首段立ち入れないコンジット広場から見られます！
◎予約不要

- 入場料：500円/人（高校生以下無料）
- 放流時間：1回目 10:00～10:20
2回目 11:00～11:20
3回目 13:00～13:20
4回目 14:00～14:20

ダム堤体内見学

ダム堤体内見学(+放流見学)の詳細

◎放流を堤体内テラス(83集会所)から付近で見られます！
◎要予約(10/13金)よりHPにて予約受付開始

- 入場料：1000円/人（高校生以下無料）
- 見学時間：1回目 9:30～10:30
2回目 10:30～11:30
3回目 12:30～13:30
4回目 13:30～14:30

大鶴湖遊覧船

大鶴湖遊覧船の詳細

◎豊木の浦公園付近発着
◎予約不要(先着順受付)

- 乗船料：おとな 2000円/人
子ども(小中学生) 1000円/人
※幼児無料
- 乗船時刻：10:00～15:00 30分毎に発航

大鶴湖遊覧船

◎豊木の浦公園付近発着
◎予約不要(先着順受付)

- 乗船料：おとな 2000円/人
子ども(小中学生) 1000円/人
※幼児無料
- 乗船時刻：10:00～15:00 30分毎に発航

エイジング焼酎

エイジング焼酎の詳細

鶴田ダムエイジング焼酎プロジェクトの詳しい情報はコチラ！

さつま町観光特産品協会HP <https://www.kanko-satsuma.jp/2020/08/03/taurudadam-agingyohu-project/>

ダム操作室見学

鶴田ダム管理所

- 入場料：無料
- 見学時間：10:00～16:00

川内川大鶴ゆうゆう館

川内川大鶴ゆうゆう館

- 入館料：無料
- 見学時間：10:00～17:00
- レストラン営業時間：11:00～14:00
(ファストオーダー13:30)
- お食事メニュー：
ダムカレー(900円)、からあげ定食(700円)
とんこつラーメン(550円)、他

アクセス

主 催 大鶴湖(鶴田ダム湖)インフラツーリズム関係者会議
問合せ 国土交通省九州地方整備局鶴田ダム管理所 TEL0996-59-2030
特設HP <https://www.csr.mlit.go.jp/turuta/go/matsuri2023.html>

2. 各モデル地区の進捗状況－鶴田ダム－

R5.11月9日

関係者会議の実施

<実施事項>

- **提供商品の造成に係る検討**
 - ・オープン化記念イベントのコンテンツの確認
- **地域が主体となったイベントの実施に向けた検討**
 - ・各提供商品（ダム見学、焼酎貯蔵販売、遊覧船等）の提供方法や各機関との役割分担の確認

R5.11月26日

オープン化記念イベントの開催

<実施事項>

- **事業基盤の構築に向けた検討**
 - ・曾木の滝（地域観光資源）や遊覧船のニーズ確認
- **対外的な発信**
 - ・一般観光客に向けたコンテンツ等の発信

R6.2月ごろ
※調整中

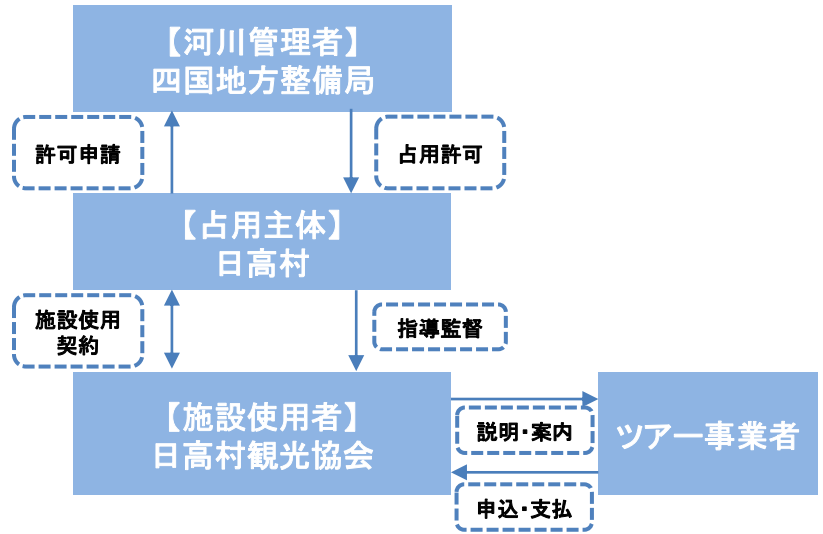
ファムツアーの開催

<実施事項>

- **対外的な発信**
 - ・継続的な販売に向け旅行会社への販路構築及び情報発信

2. 各モデル地区の進捗状況—新日下川放水路—

体制・運営スキーム



これまでの実施スケジュール（抜粋）

- モデル地区採択（令和2年8月）
- 協議会の立ち上げ：R2.8～R3.3
 - 戦略の策定：R2.8～
 - 運営体制の検討及び構築：R2.8～
 - 施設利用の覚書締結：R4.10～
 - コンテンツの検討及び地域観光資源の活用：R2.8～
 - モニターツアー等の実施：R3.9
 - 旅行商品の造成：R4.3～
 - 販売戦略の構築：R4.3～
 - 情報発信及び媒体の検討：R4.3～
- 令和2年度
 - ・（12月）現地協議会の実施
 - 令和3年度
 - ・（9月）webファムツアー意見交換会
 - ・（12月）現地協議会の実施
 - 令和4年度
 - ・（8月）ガイド研修の実施
 - ・（10月）利用（施工中）に関する覚書を締結
 - ・（2月）現地協議会の実施
 - 令和5年度※予定を含む
 - ・（5月・11月・2月）関係者会議実施予定
 - ・（12月ごろ）新規ロゴの製作

これまでの取組

- | | |
|----------------------------------|---|
| ①戦略策定 | <ul style="list-style-type: none"> ・元々受入の素地があった、近隣教育旅行をターゲットに設定することで関係者合意 ・放水路のコンセプトを関係者間で協議・決定（「巨大な水のトンネルは、未来へのトビラ。」） |
| ②事業基盤の構築
体制構築/受入環境整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・日高村を占用主体とした河川空間のオープン化に向け、法手続き準備中 ・試験運用として「日下川新規放水路（施工中）の利用に関する覚書」を高知河川国道事務所、日高村、工事施工者の3者で締結 ・観光客がコンテンツの予約が出来るような窓口を観光協会が中心に行うことを検討中 |
| ③提供商品の造成
コンテンツ造成/ガイド整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド研修を実施し、顧客動線や事前学習ツールや動画等の整備の必要性を認識 ・教育旅行に向けたコンテンツは磨き上げ中 ・仁淀川流域の魅力や日高村の水害の歴史を発信・体感する場として、映像制作等を検討 |
| ④対外的な発信
情報発信/販路構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年、令和4年に実施された仁淀ブルー体験博及び令和5年3月、6月に旅行会社主催のバスツアーを販売 ・対外的な発信向け、ブランドロゴを新規製作中。ロゴは制作後、パンフレットやウェブサイト等で活用予定 |

2. 各モデル地区の進捗状況—新日下川放水路—

■ 令和5年度の近況

- ① 教育旅行のパンフを作成し、観光協会が売込み中
- ② 日高村観光協会によるツアーが提供中

日高村アクセスガイド

車
高知自動車道の伊野インターチェンジで降り、国道33号を西(松山方面)に約20分

飛行機
羽田空港～高知空港まで1時間20分～30分
伊丹空港～高知空港まで45～50分
福岡空港～高知空港まで約50～55分

高知空港からのアクセス
高知自動車道 約36km 約35分
高知自動車道 約33分
高知自動車道 約33分
高知自動車道 約33分
高知自動車道 約33分

高知市中心部からJRでのアクセス
JR土讃線高知駅より普通列車で35分(特急列車は止まりません)
JR土讃線高知駅 約35分
JR土讃線高知駅 約35分
JR土讃線高知駅 約35分

組み合わせ自由! アクティビティ

屋形船 仁淀川
仁淀川を屋形船でゆったり遊覧。増水した際には屋形船は運休となりますが、橋が川の中に沈む名産屋形船下橋を見ることが出来ます。

SUP
SUP(サップ:スタンドアップパドルボード)に乗って清流仁淀川と美しい自然を堪能できるリバーアクティビティです。初心者でも気軽に楽しめます。

霧山茶屋
鏡山にある中西田屋大徳のお茶畑。焙烙を使って自分で茶葉を煎る「ほうじ茶づくり体験」ができます。

鏡山洞 ケイビング
忍者、目下茂平の修行の地として伝承が残る鏡山洞は全長1400mの石灰洞です。1858年に発見され、現在はそのうち200mほどが探検用に開放されています。

レンタサイクル
水貫日本一を誇る奇跡の清流「仁淀川」の眺めながら沈下橋を楽しむコースや、湿地帯や里山をめぐるコースなど、多様な日高村の魅力を楽しむことができます。

〈緊急連絡先一覧〉

仁淀病院(車で10分)
吾川郡いの町1369
電話 088-893-1551

土佐警察署日高駐在所(車で2分)
高岡部日高村本郷258-6
電話 0889-24-4110

仁淀消防日高分署(車で1分)
高岡部日高村本郷200-8
電話 0889-24-5411

問い合わせ先

日高村観光協会
高岡部日高村本郷1478-9
TEL:050-3204-1996
HP:https://www.hidakamura.info

新日下川放水路見学

巨大な水のトンネルは、未来へのとびら

日高村の歴史は「300年を超える水との闘いの歴史である」と言われ、これまで仁淀川からの逆流や、内水被害を受けてきました。「水害の村」から、「水・自然と共存する村」を目指し、国・県・村の連携によりハード・ソフト対策が一歩一歩進められてきました。水害に悩まされながらも、美しい仁淀川や絶景の地帯の特色ある鏡山など豊かな自然にも恵まれており、特色ある環境学習や、歴史学習も体験することができます。

日高村で学べるコト

防災学習

日高村では高知県内で唯一、水を本流からの逆流を防ぐ「**とめる**」**神母樋門**、増水時に水を貯めて流れを調整する「**ながす**」**目下川調整池**、増水した水を仁淀川下流にながす「**ためる**」**新日下川放水路**の3つの機能を一つの村で学ぶことが出来ます。水と闘い、水と共に生きてきた300年を超える歴史を通して、災害が頻発する今日、防災意識の大切さを学びます。

目下川の低平地部は、全体として地盤が低く、地震や洪水の影響で地盤沈下も生じてきました。そのたびに神母樋門①や目下川放水路②、調整池③などを整備してきました。しかし平成26年8月に2度も大きな台風に見舞われ、床上浸水127戸、床下浸水97戸の甚大な被害が発生しました。その教訓を基に将来の被害を軽減するため、総延長5.3kmの新日下川放水路トンネルの整備が始まりました。

水害の被害を受けやすい地域では船が壊れるおそれがあります。

- ① 樋門とは、河川と水路を仕切る門のこと。洪水時に水の逆流を防ぐ役割がある
- ② 放水路とは、河川の途中から新しく人工的に掘削し、直接海または他の河川に放水する水路のこと
- ③ 調整池とは、雨水を一時的に貯めて河川への雨水の流出量を調節する池のこと

環境学習

日高村は、度々なる水害対応としての施設整備だけではなく、豊かな生態系を育む自然や環境の保全を同時に行っていました。地域資源の保全と持続可能な活用を学びます。

歴史学習

1400年を超える歴史を持つ小村神社。蛇紋岩地帯の特色ある植生の鏡山や、悠久の歴史を語る鏡山洞、人が歩んできた歴史を繋ぐ産業郷土資料館など、様々な歴史を学びます。

2. 各モデル地区の進捗状況—新日下川放水路—

R5.5月15日
※実施済み

作業部会（現地検討会）の開催

<実施事項>

- 提供商品の造成に係る検討
 - ・コンテンツの検討
 - ・ガイドマニュアルの確認
- 事業基盤の構築に係る検討
 - ・河川空間のオープン化に伴う手続きの確認
- 対外的な発信
 - ・ロゴ案の検討

R5.11月9日

作業部会（現地検討会）の開催

<実施事項>

- 提供商品の造成に係る検討
 - ・コンテンツの磨き上げ
- 対外的な発信
 - ・ロゴ案の検討

R6.2月ごろ
※調整中

第二回協議会の開催

<実施事項>

- 地域が主体となったツアーの実施に向けた検討
 - ・次年度以降の実施事項の確認
 - ・継続的な事業実施に向けた検討

2. 各モデル地区の進捗状況 —中間総括—

各モデル地域の今後の実施方針において、現状を整理する事業項目及び基準となるポイント

1 【戦略策定】

- ✓ 現状把握 : 地域の観光資源を把握しているインフラ施設来訪者数や属性を把握している
- ✓ 事業目標の設定 : 実現したいゴールイメージや数値目標が設定されている

2 【事業基盤の構築】

【体制構築】

- ✓ 会議体の組成 : 関係者と合意形成を図れる会議体がある

【受入環境の整備】

- ✓ 最低限必要な施設の整備 : 安全対策上必要な柵の設置や貸出用の備品、駐車場等が整備・用意されている
- ✓ 予約受付体制 : 観光客の見学会の申込みに際して、予約管理可能な体制やウェブサイトが構築されている

3 【提供商品の造成】

【コンテンツ造成】

- ✓ 基礎情報のタリフ化 : 最少催行人員や料金等のコンテンツの基礎情報が一元的にまとまっている

【ガイドの整備】

- ✓ ガイドの役割の明確化 : ツアー等において施設の職員以外がガイドを行う場合にガイドが担う役割が明確化している

4 【対外的な発信】

【情報発信】

- ✓ 情報発信可能な媒体を有する : ウェブサイトやSNSにおいて取組主体が施設の情報やアクセス等の基礎情報の発信が可能な媒体がある

【販路構築】

- ✓ 販売先の確保 : DMOや旅行会社、OTA等の様々な販売窓口に対して商品を提供し、販売いただける状態になっている

5 【地域が主体となったツアーの実施】

- ✓ 有料化されたツアー（提供商品）が造成されており、かつ恒常的に販売し続けられる状態が、地域の実施主体（観光協会や地域の旅行会社等）を中心として構築されている

2. 各モデル地区の進捗状況

- 手引き改訂版の取組むべき事項を参照し、各評価項目について進捗状態を評価。
- 天ヶ瀬ダム・鶴田ダム・新日下川放水路については、令和5年度末の自走化を目指している。

整理項目	天ヶ瀬ダム	鶴田ダム	新日下川放水路
①戦略策定	△ → ○ 教育旅行向けにターゲットを絞られ、 コンテンツ造成の方向性の明確	○ → ◎ 個人客をターゲットにダム見学 単品商品として提供	△ → ○ 高知県内教育機関をターゲットに コンテンツを提供
②事業基盤の構築 (体制構築/受入環境整備)	○ 管理事務所、市役所、観光協会等による 体制が構築済み オープン化に向けて準備中	△ → ◎ 河川空間のオープン化完了 土日の受入可能な体制を構築済み	○ 観光協会を中心に体制構築中 オープン化は手続き準備中
③提供商品の造成 (コンテンツ造成/ガイド整備)	△ → ○ 見学コンテンツの造成は完了 ガイドを確保、マニュアル整備済み	△ → ◎ 見学コンテンツの造成、ガイド整備は完了 更なる地域資源との連携を模索	△ → ◎ 教育旅行向けコンテンツ販売中 ガイドのマニュアル等を整備済み
④対外的な発信 (情報発信/販路構築)	○ ダムそのものの発信は 管理事務所や観光協会で実施	△ → ○ ウェブサイト等による情報発信を実施 多様な販路は今後構築	△ → ○ 教育向けパンフレットを作成済み ウェブサイト等は今後検討
⑤地域が主体となったツアーの実施	△ → ○ 有料コンテンツの販売及び恒常的に事業を 実施するための体制構築の目途が立つ	△ → ○ 有料化した体験会の販売 観光客の要望に即した土日受入を開始	△ → ○ 有料コンテンツの販売を開始 体制は構築中

- ◎：実施中（実施内容・役割分担等の決定）
- ：検討中（概ねの方針決定段階）
- △：検討中（方針未定、着手の初期段階（課題の整理等））
- －：検討未着手

2. 各モデル地区の進捗状況ーR5新規モデル地区と概要ー

①青い池と十勝岳火山砂防情報センター

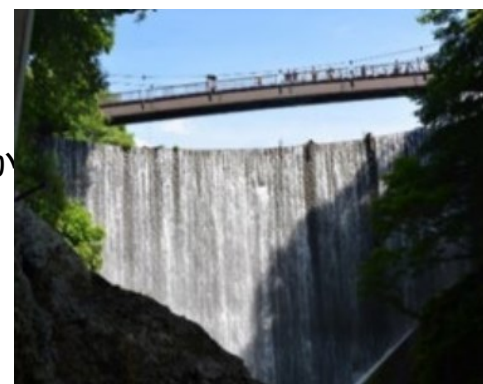
【北海道上川郡美瑛町白金】

- ・直轄火山砂防事業で整備した砂防施設に美瑛川の水が滞留してできた幻想的な風景が、「青い池」として有名な観光スポットになっている。
- ・青い池と砂防堰堤、十勝岳火山砂防情報センターを組み合わせた見学会の開催や地域の小学校を対象とした防災学習などの取組を実施している。
- ・駐車場の整備や冬季の青い池ライトアップなど、通年による受入体制を整備。



②大源太川第1号砂防堰堤【新潟県南魚沼郡湯沢町大字土樽】

- ・昭和10年の「魚沼大災害」を契機に昭和13年に着工し、昭和14年に竣工した砂防堰堤施設。老朽化に伴い補強工事を行い、令和4年度に竣工。補強工事を行う際に、水を下流に流すための仮排水トンネルを整備。施設管理者等が同伴し、仮排水トンネル坑口が堰堤の正面を見ることが出来る。
- ・登録有形文化財、選奨土木遺産でもあり、新たな観光の取組が推進されており、町民を対象とした見学会の開催、民間事業者による砂防堰堤施設とNEXCO施設を連携させたインフラツーを実施。地域の多様なコンテンツの連携により、より地域への波及効果を高める取組への期待できる。



③亀の瀬地すべり対策工事

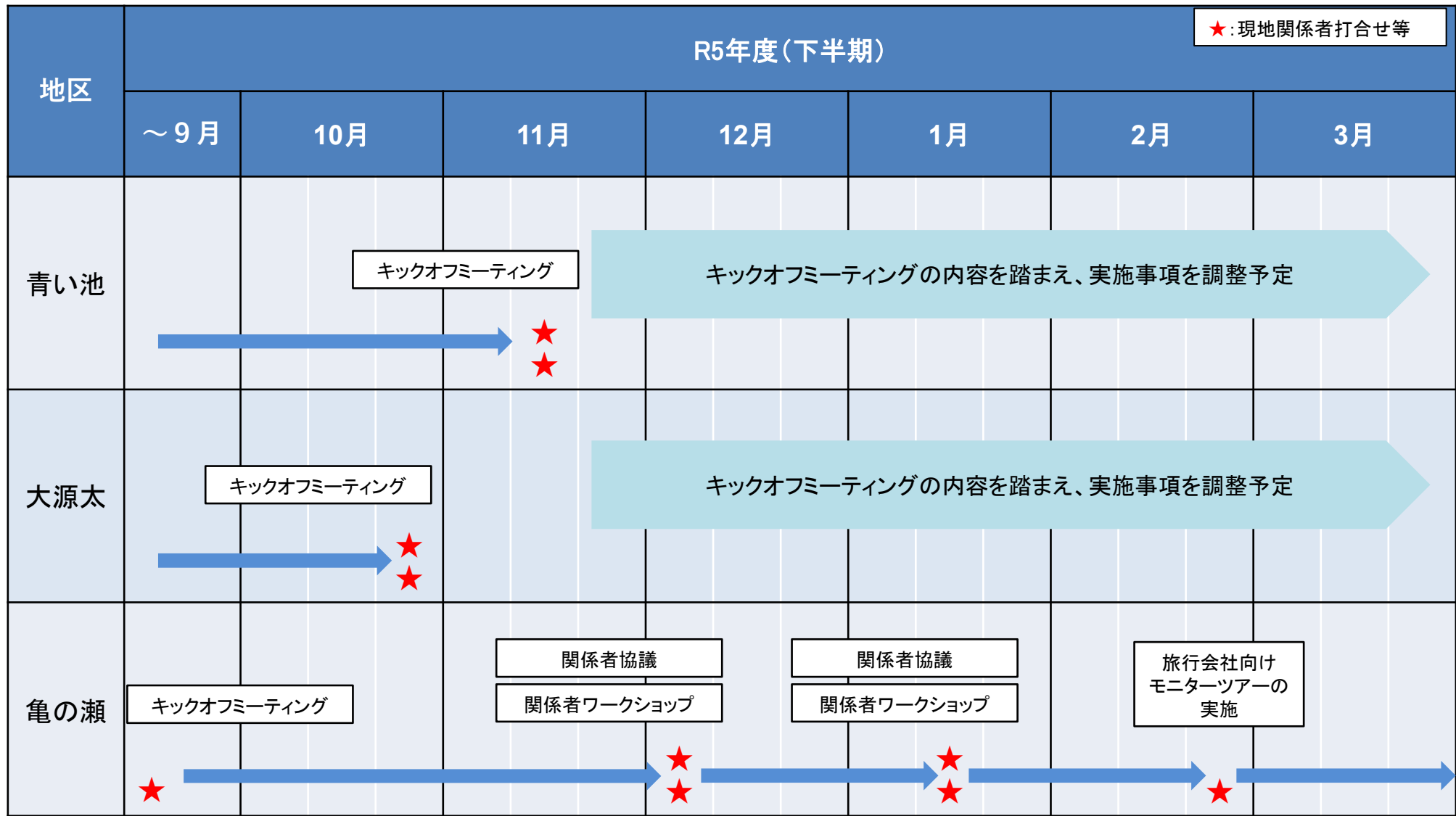
【大阪府柏原市/(奈良県三郷町)】

- ・地すべり対策地区内にある地すべり歴史資料室及び地すべり対策工事(排水路)、旧大阪鉄道亀の瀬隧道(鉄道遺構)内のプロジェクションマッピングの見学を開催。
- ・インフラ施設周辺には龍田大社等、日本遺産構成遺産もあり、日本遺産協議会(柏原市及び三郷町、周辺の遺産関係者)と情報発信等で連携している、周辺地域連携モデル。



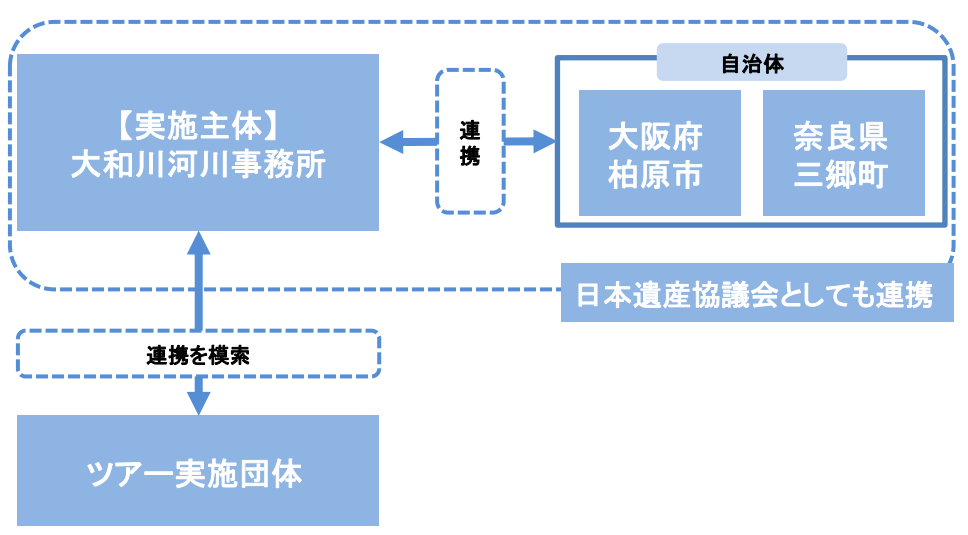
2. 各モデル地区の進捗状況ーR5新規モデル地区と概要ー

◆R5年度の新規モデル地区における協議会、モニターツアー等の実施状況、予定



2. 各モデル地区の進捗状況－亀の瀬地すべり対策工事－

体制・運営スキーム



モデル地区選定前までの取組

- 平成28年度～令和2年年度
 - ・山の日・川の日イベント/地すべり見学会
- 令和3年度
 - ・日本遺産「龍田古道・亀の瀬」周遊E-BIKEツアー
 - ・土木の日企画！日本遺産「龍田古道・亀の瀬」ぐるっとさんぽ
- 令和4年度
 - ・日本遺産龍田古道・亀の瀬学べるシンポジウム
 - ・亀の瀬地すべりの施設見学会
 - ・亀の瀬と伝統工芸を体験するサイクルツアー
- 令和5年度
 - ・亀の瀬トンネル内プロジェクションマッピング「光の旅路」

これまでの取組

①戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣関西圏の一般、教育等の幅広いターゲットを対象に有料コンテンツ等の販売を実施するとともに、地域の賑わい創出を目的に事業を展開している ・ターゲットについては今後、さらに具体化を進める予定
②事業基盤の構築 体制構築/受入環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体との連携等の体制構築に向けた取り組みを進めている ・受入に向けた予約スキーム等が煩雑になっている状況があり、今後改善に向けた検討を行う ・今年度、資料室をリニューアル予定
③提供商品の造成 コンテンツ造成/ガイド整備	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクションマッピング等のコンテンツは造成されているものの、高付加価値化等の磨き上げを行う予定 ・地域の連携できるガイドが少なく、今後確保に向けた検討を行う必要がある
④対外的な発信 情報発信/販路構築	<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産協議会等のウェブサイトにて情報発信を実施

2. 各モデル地区の進捗状況 —新モデル地区検証事項—

- これまでのモデル地区実験により、事業戦略の策定や事業基盤の構築、旅行商品の造成のノウハウが得られ、インフラツーリズム拡大の手引きを改訂することができた。
- 一方で、課題としては、これまでのモデル地区のインフラ施設はダムや長大橋と偏りがあり、地域と連携した集客性・収益性のある取組事例が少なく、各候補インフラ施設の熟度による違い検証がさらに必要（これから推進していく施設・更なるレベルアップを図っていく施設等）。
- また、令和5年10月に改訂した手引きをモデル地区へ適用して、その有効性・不足点を検討する必要がある。

◆新モデル地区における共通の検証事項

課題	検証事項
<ul style="list-style-type: none"> • インフラ施設の分野に偏りがある • 各候補インフラ施設の熟度による違い検証 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新たな3モデル地区は全て「砂防」施設から選定 • 分野を拡大したことによる、取り組みの留意点・課題など • 「これから推進していく施設」、「更なるレベルアップを図っていく施設」の2パターンを確認
<ul style="list-style-type: none"> • 地域と連携した集客性、収益性のある取組事例が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 集客のある観光資源周辺に眠ったインフラをモデル地区として選定 • 集客性、収益性を視野に入れた周辺観光資源との連携（広域連携モデル）を検証
<ul style="list-style-type: none"> • 手引き改訂版の有効性を検討する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> • 手引き改訂版を実際に踏まえた取り組みを実践し、手引きの有効性、不足点をチェック

◆成果の反映

→モデル地区において、検証成果を踏まえ、手引きを増補していく。

2. 各モデル地区の進捗状況 —新モデル地区検証事項—

◆新モデル地区における個別の検証事項



- 青い池(美瑛川ブロック堰堤)と十勝岳火山砂防情報センター
 - ・十勝岳の火山泥流から美瑛町を守るブロック堰堤により青い池が形成された有名観光スポット。
 - ・ジオパークと連携し、火山との共生をテーマに学習する観光地との連携モデル。



- 大源太川第1号砂防堰堤
 - ・昭和14年に完成したアーチ式砂防堰堤で登録有形文化財、選奨土木遺産。
 - ・砂防施設をツーリズムとして見せるための検討を進めるとともに、周辺観光資源を組み合わせた連携モデル。



- 亀の瀬地すべり対策
 - ・全国有数の大規模な地すべり対策事業で、集水井や排水トンネルの見学が可能。
 - ・龍田古道や明治時代の鉄道トンネルなどを組み合わせ、歴史を紹介・学習する既存見学会の発展モデル。

3. これまでの課題と対応方針(案)

3. これまでの課題と対応方針(案)

◆魅力倍増プロジェクトについて

【成果】

- ・社会実験により一定の知見が蓄積されたモデル地区は、自走化へ移行することとなり、必要なノウハウは「手引き」に記載し、横展開を図っていく。
- ・「手引き」によって、より多くの人々がインフラツーリズムへの理解が増し、新たに取り組む地区が出てくることを期待。
- ・今後は、インフラの種類や立地条件、地域戦略によって、ツアー造成のタイプ分けの見極めが必要となることから、「手引き」や有識者の助言等を参考としながら、目指すべき方向性のタイプを早期に決定することが重要。

【課題】

- ・モデル地区以外におけるインフラツーリズムの取り組み方が十分に浸透されていない。
- ・コロナの影響等もあり、指定されたモデル地区が自走化まで至っていない。
- ・全て同じような考え方(有料・無料等)で実施するものではなく、ケースに応じたモデル地区での検討が必要である。
- ・モデル地区実証実験の終了が、施策の縁の切れ目にならないような工夫が必要である。
- ・インフラツーリズムの認知度を向上する必要がある

【取組の方向性(案)】

- ✓ モデル地区成果発表会の実施(5月)
- ・ 手引きの説明会・動画配信
- ・ モデル地区成果発表会の実施

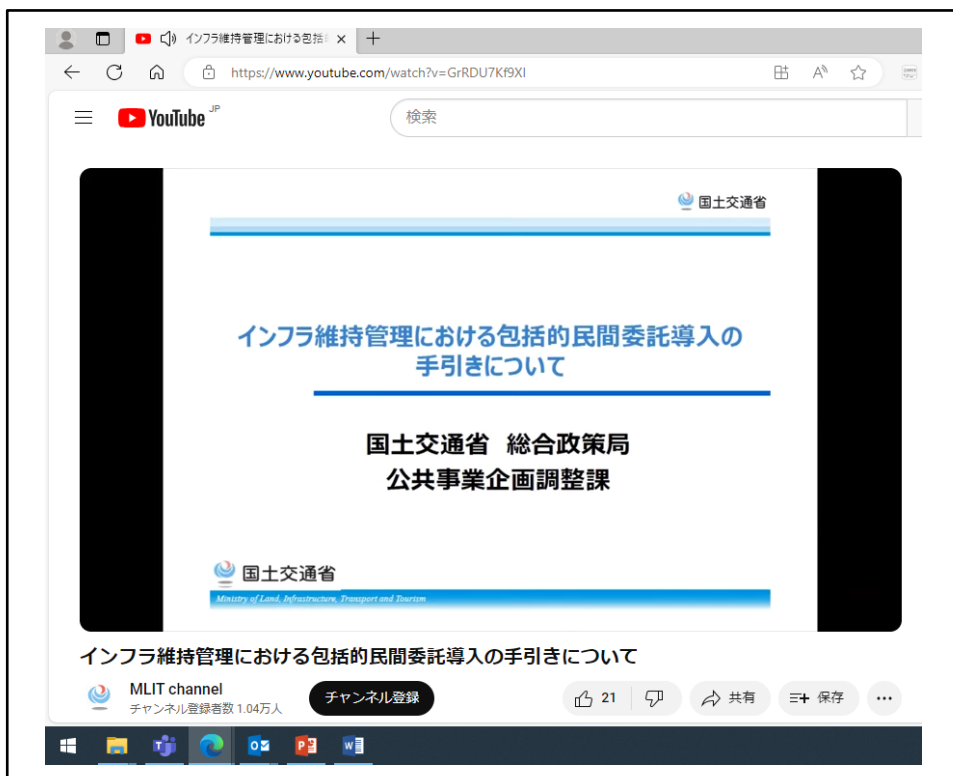
- ・ 卒業に向けた目標設定の検討
- ・ 目指すべきモデル地区のタイプについて関係者と情報共有

- ・ 持続的な実施に向けた体制の検討

- ・ サブタイトル(案)の検討

3. これまでの課題と対応方針(案) ー 一手引きの周知 ー

- 令和5年10月に公表されたインフラツーリズム拡大の手引きを、より多くの方に理解いただくため、国土交通省のYouTubeチャンネルに説明動画を掲載する。
- インフラツーリズムを実際の担当者に直接説明するため、「モデル地区成果発表会」等の公開イベントで手引きの説明会を開催する。



配信イメージ



成果発表会(令和5年5月18日開催)

3. これまでの課題と対応方針(案) – 取り組みの横展開 –

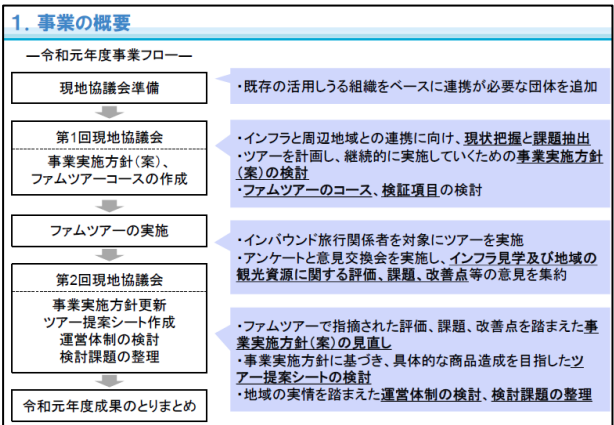
- モデル地区成果発表会の開催
 - 成果発表会により、各モデル地区の取り組みを横展開することで、インフラツーリズム担当者が自分のモデル地区になかった情報入手やモデル地区間での連携が可能になる。
- 卒業したモデル地区の経過資料を取りまとめ
 - 手引きは、インフラツーリズムの教科書的な役割がある一方で、実際の進め方についてイメージが難しい。卒業したモデル地区で、受入環境、受入体制、コンテンツ造成等でどのような検討やモニターツアー、ガイド育成を行ったのか等必要な作業の検討経過の資料をとりまとめ、新規モデル地区へ横展開し、実際の進め方がイメージできるようにするとよいと考える。

■経過資料の想定要素

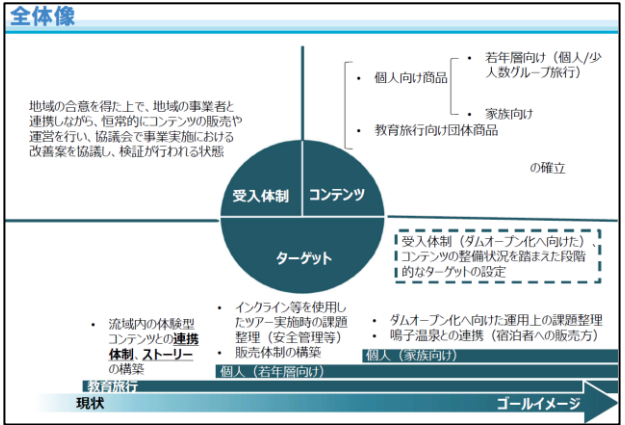
- ・事業スケジュール
- ・戦略策定
- ・運営体制の構築
- ・コンテンツ造成
- ・モニターツアー
- ・ガイドマニュアル 等

■経過資料のイメージ

事業スケジュール ※資料は鳴子ダムの例より



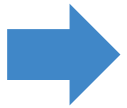
戦略策定



コンテンツ造成

コンテンツ・商品イメージ		
個人/少人数のグループ旅行	教育旅行	家族向け
<ul style="list-style-type: none"> インフラ施設の土木構造物としての見たり役割に対し興味・関心を持っている 風景史跡の見学等、経験につながる楽しみ方を求める傾向にある 	<ul style="list-style-type: none"> 来訪先の生活を学ぶ体験型の学習 クラス別や明別等一定人数を一度で受入可能な体制 	<ul style="list-style-type: none"> 知識や好奇心を高める体験を求めている 温泉やグルメ等誰でも楽しめることに関心が高い
商品設定		
普段は入れない(少人数でしか入れない) 堤体内部の見学等プレミアム(マニア向け)な商品	流域内の食・農文化、農業体験等体験型の学習コンテンツと組合せた教育旅行向け商品	鳴子温泉の宿泊客に向けた前日・当日予約可能なオプション商品
ダム天端 管理所テラス・展示室 ダム操作室	ダム天端 管理所テラス・展示室 ダム操作室	ダム天端 管理所テラス・展示室
ダム堤体内部の見学(インクライン) ダム湖遊覧	点検放流 大崎耕土	ダム湖遊覧
		夜間の見学(ライトアップ) 鳴子温泉

モデル地区での経過



実際の検討資料

3. これまでの課題と対応方針(案)－持続的な実施に向けた体制の検討－

- 自走化した地区においても、ツアー造成等が順調に進まない場合も想定される。
- そこで、モデル地区の実証実験終了後も、持続的な取組みを支援するための体制検討が必要。
- 持続的な実施に向けた体制の構築によって、地域と地方整備局等が連携を深め、より一層の地域活性化の取組みが強化されると考えられる。

○体制づくりにおいて、求められる役割

- ・相談があった場合に、本省と地方整備局等で情報共有を図り、問題解決に努める
- ・地方整備局等を介し、これまで培ったノウハウを活用しモデル地区をサポート
- ・自走化した地区のフォローアップを行い、プッシュ型の積極的な支援

○支援の範囲

- ・当面は「自走化した地区」や「現在取り組んでモデル地区」を想定

3. これまでの課題と対応方針(案) –サブタイトル(案)–

- 魅力ある広報を展開するにあたり、「インフラツーリズム」の認知度を高め、来訪者の増加を図る必要があり、その課題解決の一つとして、「ネーミングの工夫」が必要と考えられる。
- そこで「インフラツーリズム」の後にサブタイトルを追加し、インフラという固いイメージに柔らかいイメージを加えることで、「インフラツーリズム」の取り組みに、親近感を持って頂くことが必要と考えられる。
- 具体的には、ポータルサイトやSNS、パンレット等で情報発信し、更なる認知度向上に努め、来訪者の増加へとつなげていきたい。

【誰に何を訴えるのか】

【訴求対象】

消費者向け
(インフラツーリズム参加者向け)

【サブタイトルもって訴求すること】

非日常的な経験と学習を体感し、インフラを身近に感じて頂く

【サブタイトルの考え方(案)】

- サブタイトルには、「ワクワク感」や「学習」、「未体験」を表現するキーワードを盛り込む。
- キーワード例 …「魅力的」「非日常的」「知識」「新たな…」「どどんと」「ここだけ！」など

【例①】 非日常的な体験と新たな知識を！

【例②】 未知の感動がここにある

【例③】 今だけ！ ここだけ！ 土木だけ！

【選定方法】

魅力倍増プロジェクトのロゴは、SNSで決定

4. 今後のスケジュール(案)

4. 今後のスケジュール(案)

事業全体	~R4	R5	R6~
インフラの観光資源化 全体の進め方	手引き更新	★公表	今後の取組の検討 ・手引きの普及 ・モデル地区の横展開 ・インバウンドへの対応
	モデル地区における自走化に向けた支援		
			全国展開

モデル地区 (R1,R2年選定)		~R4	R5	R6~
各地域における検討	運営体制の構築	協議会の立ち上げ	運営体制の構築 (ツアー事業者)	<社会実験終了(予定)> 定期的に状況確認を行い、 必要に応じてアドバイス (地域主体のツアー実施)
	インフラ施設見学の深度化・地域の観光資源と連携した内容の検討	コンテンツの検討 見学・体験の運営体制の構築		
	インフラツーリズムの実践	地域観光資源との連携 (インフラとの「ストーリー」構築)		
	運営体制の検討	モニターツアー等の実施	旅行商品の造成	販売戦略の構築

モデル地区 (R5年選定)		~R4	R5	R6~
各地域における検討	運営体制の構築		協議会の立ち上げ	運営体制の構築 (ツアー事業者)
	インフラ施設見学の深度化・地域の観光資源と連携した内容の検討		コンテンツの検討、見学・体験の運営体制の構築	
	インフラツーリズムの実践		地域観光資源との連携 (インフラとの「ストーリー」構築)	
	運営体制の検討		モニターツアー等の実施	旅行商品の造成
			販売戦略の構築	

地域主体のツアー実施